

Ⅱ 国語の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「大問・領域」には、「読むこと（文学的文章）」「読むこと（説明的文章）」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き）」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き以外）」「書くこと（条件作文）」の5領域を、「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 「調査結果の概要と分析」については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続してみられる課題」を示した。

（◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント）

3 「領域別調査結果の指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・誤答例・結果等について左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に記した。

※ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

評価の観点 1…国語への関心・意欲・態度 2…話す・聞く能力 3…書く能力
4…読む能力 5…言語についての知識・理解・技能

領域	大問	小問	設問のねらい	評価の観点				
				1	2	3	4	5
(文学的文章) 読むこと	1	問1	表現に注意しながら文章を読み、登場人物の心情を正確にとらえることができる。				○	
		問2	叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取ることができる。				○	
		問3	表現の仕方や文章の特徴に注意しながら、登場人物に関する描写について正確に読み取ることができる。			○	○	
		問4	読み取った事がらに基づきながら、登場人物の心情や行動について説明することができる。			○	○	
		問5	文章全体を把握し、主人公とその他の登場人物の人間関係を理解できる。				○	
(説明的文章) 読むこと	2	問1	説明的文章における論の展開を正確に読み取ることができる。				○	
		問2	文章中で説明されている内容を整理することができる。				○	
		問3	論の展開に沿って、適切な接続詞を入れることができる。				○	○
		問4	文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることができる。				○	
		問5	文章の展開に沿って、正しく読み取り、内容のまとまりをとらえることができる。				○	
項 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事 (漢字の読み書き)	3	1	小学校6年生までに学習した漢字を正しく書くことができる。					○
		2						○
		3						○
		4						○
		5	小学校6年生までに学習した漢字を正しく読むことができる。					○
		6						○
		7						○
		8						○
に伝 伝統的な言語文化と国語の特質 関 する事項 (漢字の読み書き以外)	4	問1	漢字の書き順を理解し、正しく書くことができる。					○
		問2	同音の漢字の意味の違いを捉え、文脈に沿って適切な漢字を選ぶことができる。					○
		問3	歴史的仮名遣いを理解し、正しく読むことができる。				○	○
		問4	文の構造を理解し、正しく表現することができる。					○
		問5	接続詞を理解し、文と文を正しくつなぐことができる。			○		○
文 (書くこと 条件作)	5		表の内容を正しく理解し、自身の意見を加えながら、筋道立てて文章を書くことができる。	○		○		○

2 調査結果の概要と分析

◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント

全体	◇文章全体を把握し、主人公とその他の登場人物の人間関係を理解することについては、おおむね満足できる状況にある。 ◇文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることについては、おおむね満足できる状況にある。 ◆登場人物の心情や行動について説明する問題、記述式の問題に課題がみられる。 ◆漢字の書き順を理解し、正しく書くことに課題がみられる。 ◆自分の考えを体験と結び付けて書くことに課題がみられる。
領域別	読むこと 【文学的文章】 ◇文章全体を把握し、主人公とその他の登場人物の人間関係を理解する問題（1－問5）の正答率は83.6%と昨年度と同等であり、おおむね満足できる状況にある。 ◆叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取る問題（1－問2）の正答率は29.5%と昨年度の61.2%を大きく下回り、設問の問い方によっては、正確な読み取りに課題がみられることが分かる。 ◆表現の仕方や文章の特徴に注意しながら、登場人物に関する描写について正確に読み取る問題（1－問3）、読み取った事ごとに基つきながら、登場人物の心情や行動について説明する問題（1－問4）は記述式の問題であり、昨年同様に正答率が低く、課題がみられる。 ○根拠を明確にした上で、人物の心情を述べたり、読み取った内容を基に、自分の言葉を使ってまとめたりする活動を継続的に行う必要がある。
	読むこと 【説明的文章】 ◇文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取る問題（2－問4）の正答率は87.4%と昨年度同様に高く、おおむね満足できる状況にある。 ◆文章中で説明されている内容を整理する問題（2－問2）の正答率は39.7%で昨年度同様に正答率が低く、課題がみられる。 ◆論の展開に沿って、適切な接続詞を入れる問題（2－問3）の正答率は33.7%で昨年度の正答率を大幅に下回り、設問の問い方によっては課題がみられることが分かる。 ○文章中のキーワードに注意して、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要に応じて要約したりする活動を積極的に行う必要がある。
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ◇小学校6年生までに学習した漢字を正しく読むこと（3－5、6、7、8）、旧仮名遣いを理解し、正しく読むこと（4－問3）についてはおおむね満足できる状況にある。 ◆小学校6年生までに学習した漢字を正しく書くことの「税金を<u>オサ</u>める」（3－1）は、正答率54.2%であり、昨年度選択式で出題した同漢字の正答率82.1%よりかなり低く、書き取りには課題がみられる。 ◆漢字の書き順を理解し、正しく書くこと（4－問1）の正答率は43.5%と昨年度同様に低く、課題がみられる。 ○国語辞典、漢和辞典を活用した授業を積極的に行うとともに、書写の授業での文字指導を一層充実させる必要がある。
	書くこと ◇グラフを読み取り、自分の考えをもつことについては、おおむねできていた。 ◆自分の考えを経験したことと関連付けて述べることに課題がみられる。 ○すべての領域において「書く活動」をより一層充実させ、読み取った内容に対する自分の考えを書く活動を積極的に行う必要がある。
継続してみられる課題	◆文学的文章を読むことについては、読み取った事ごとに基つきながら、登場人物の心情や行動について説明する力が不足している。 ◆説明的文章を読むことについては、文章中で説明されている内容を整理する力が不足している。 ◆漢字の書き順については、基本的な知識の定着に課題がみられる。 ◆表の内容を正しく理解し、自分の意見を加えながら、筋道を立てて文章を書くことについては、自分の考えを経験と関連付けて書くことに課題がみられる。

3 領域別調査結果の指導のポイント

(1) 読むこと【文学的文章】

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1 読むこと 文学的文章	問 1	おばさんが「こわい顔」をしていたのはなぜかがわかる一文の初めの五字を書き抜きなさい。	すごい英才	小学生選手 英才スポ根		41.1	5.1	70
	問 2	岩場に着いたときの「わたし」の心情を表した一文をア～エから選びなさい。 ア岩場を占領した優越感がこみあげてくる。 イ泳ぎに興奮した気持ちがよみがえってくる。 ウ熱気や興奮がずいぶん前のことのようにだ。 エ大自然に感動してわくわくした気持ちになる。	ウ	エ イ		29.5	0.5	70
	問 3	「風がみえる」とあるが、美月が「何をして」「どのようなことに気づいた」からそのように思ったのか。三十字以上四十字以内でまとめなさい。	あおむけに寝転んで目を閉じていると、風の強さといっしょにまぶたの色が変化する	まぶたを閉じると明るいみかん色が見える ～まぶたの色が <u>変化</u>		36.2	14.1	60
	問 4	「沙耶ちゃん」に「心を見すかされた」と思ったのはどんなことか。二十字以内で書きなさい。	ヒコーキくんの顔を思いうかべていた	風が見えるのをヒコーキくんに教えたい		35.4	16.5	60
	問 5	「わたし」が緑の島をながめたときの気持ちをア～エから選びなさい。 ア大自然の素晴らしさを感じている。 イ泳いだ話を聞き、うらやましく思っている。 ウ四歳で五百メートル泳いだすさまじい体力に驚いている。 エ沙耶ちゃんをおぶる母親の姿に、親子の情愛を感じている。	エ	ア イ		83.6	0.8	70

(単位：%)

読むこと【文学的文章】

問題

＜資料文について＞

薫くみこ『ぜんぶ夏のこと』からの抜粋である。

母親と二人で暮らす十一歳の少女美月（「わたし」）は、その年の夏休み、遠い親戚で、浜で貸しボート小屋を営む「海のおばさん」のもとに預けられる。初めは慣れない環境に戸惑い、友だちのできなかった美月だが、工務店の娘で一歳下の「沙耶ちゃん」や不思議な少年「ヒコーキくん」との出会いにより、少しずつ周囲に溶け込んでいく。資料文は、美月が、水泳選手として周囲の期待を集める「沙耶ちゃん」の応援にプールを訪れる場面である。

資料文については、①主人公とまわりの登場人物の様子が生き生きと描かれており、人物像や心情の変化などが生徒の興味関心をひきつける、②心情描写が丁寧に書かれていて、さらに情景描写からも心情を読み取れる、という観点で選定した。

問 1

①「なんだかずいぶんこわい顔をしていた。」とありますが、なぜこわい顔をしていたのですか。それがわかる一文を探し、初めの五字を本文中から書き抜きなさい。

分析

表現に注意しながら文章を読み、登場人物の心情を正確にとらえることができるかをみる問題である。正答率が41.1%と低かったのは、傍線部と解答が離れていたため、見付けることが難しかったからだと考えられる。主な誤答である「小学生選手」からの一文は、こわい顔をしていた説明にはなっていないが、傍線部の近くにあるので解答にしてしまったと思われる。正答の付近まで読み進めれば、「こわい顔してたのはそういうことね。」という会話の表現から正解が導けるはずであり、表現に注意しながら文章全体を読む力が不足していると考えられる。

問 2

（ ※ ）に入る文として適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 岩場のでっぺんを占領している優越感がこみ上げてくる。
- イ 沙耶ちゃんの泳ぎに興奮した気持ちがまたよみがえってくる。
- ウ さっきまでの記録会の熱気や興奮がずいぶん前のことのように。
- エ 大自然のすばらしさに感動してわくわくした気持ちになる。

分析

叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取ることができるかをみる問題である。「頭の中が空っぽになる。」「波音がゆっくりと時を刻んでいく。」といった表現に着目し、動きや音のある水泳の記録会の場面から、岩場の静かで動きのない場面への変化をとらえて解答すべきである。選択問題にも関わらず、正答率が29.5%だったのは、（ ※ ）の周辺に他の選択肢につながるような表現があり、前後の場面の内容を考えずに解答してしまったからだと思われる。叙述に沿って各場面の内容を正確に読み取る力を付ける必要がある。

問3

②「風が見える。」とありますが、これは美月が何をして、どのようなことに気がついたから、そのように思えたのでしょうか。最後が「～ことに気がついたから。」に続くように、三十字以上四十字以内にまとめて書きなさい。

分析

表現の仕方や文章の特徴に注意しながら、登場人物に関する描写について正確に読み取ることができるかをみる問題である。正答率は36.2%で、無解答率は14.1%だった。記述式の問題であったため、正答に近い内容を見付けられているのに、求められている形や字数で答えることができない場合が多かったようである。

また、「何をして」が書かれている場所と「どのようなことに気付いたか」が書かれている場所が離れているため、二つの文を結び付けて書くことが難しかったと考えられる。表現に注意して描写を正確に読む力と文章全体を読む力を付ける必要がある。

主な誤答例について

- 「どのようなことに気付いたか」が適切に読み取れていないもの
あおむけに寝転んでまぶたを閉じていると、明るいまかん色が見える
- 「何をして」「どのようなこと」の形になっていないもの
風の強さといっしょにまぶたの色が変化し、波打つ光が風を伝える
- 「～こと」に続かないもの
あおむけに寝転んで目を閉じていると、風の強さといっしょにまぶたの色が変化

問4

③「勘のいい沙耶ちゃんに心を見すかされたようであわてた。」とありますが、見すかされたように思ったのはどんなことですか。文中の言葉を使って、「～こと」に続くように、二十字以内で書きなさい。

分析

読み取った事がらに基づきながら、登場人物の心情や行動について説明することができるかをみる問題である。直後の「急いでヒコーキくんを心から追いだす」という表現から、主人公がヒコーキくんのことを思い浮かべていたことは明らかであるが、正答率が35.4%であったのは、「どんなことを見すかされたように思ったのか」という問いに対して、正しく答えられていない場合が多かったからである。書き抜きでは正答にならず、言葉を補って答えなくてはならないが、書き抜いてしまったものも多くみられた。

無解答率は16.5%であり、昨年度の記述式問題の11.8%と比べても高い数値である。傍線部の前後に特に紛らわしい表現もないため、心情の読み取りは容易であり、答え方や、言葉の補い方が分からなかった場合がほとんどだと考えられる。

また、無解答率の高さには、「書くこと」に対する抵抗感や苦手意識が少なからず影響していると考えられる。自分の言葉を使って記述する力を段階的に付けていく指導が必要である。

問5

④「わたしは、遠く続いている波の背、その向こうにぼっこりとうかんだ緑の島をながめた。」とありますが、このときわたしはどんな気持ちだったと考えられますか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 青い海と白い波、その向こうの緑色の島をながめ、大自然のすばらしさを感じている。
- イ 島まで泳いでいった話を聞き、自分も美しい島へ行きたいとうらやましく思っている。
- ウ たった四歳で五百メートルも泳いだことを聞いて、そのすさまじい体力に驚いている。
- エ 沙耶ちゃんをおんぶして泳ぐおかあさんの姿を想像し、温かい親子の情愛を感じている。

分析

文章全体を把握し、主人公とその他の登場人物の人間関係を理解できるかをみる問題である。直前の会話と傍線部のあとの「沙耶ちゃんのおかあさんと小さな沙耶ちゃんの姿が、きらめく光の中に見えてくる。」という表現から正答を選ぶことができる。選択問題だったこともあり、文学的文章の問題の中では最も高い83.6%の正答率であった。この問題は、正答を導く表現が傍線部から比較的近い場所にあるため、多くの生徒が、会話や前後の表現をよく読み取って解答できたと思われる。しかし、「イ」や「ウ」といった誤答もみられた。「四歳で、五百メートル泳いだの!」や「うわあ……」という表現に注目して、会話の全体をとらえられなかったと考えられる。文章全体をしっかりと把握しながら読むことが大切である。

指導のポイント

- 文章の内容を正確に読み取るために、根拠を明確にした上で、人物の心情を述べさせる活動を行う。登場人物の心情を表す具体的な表現に着目させるとともに、人物の言動や人物同士の関係を表す表現にも注意させる。
- 読み取った内容を基に、自分の考えをまとめ、書かせる活動を行う。書くことが苦手な生徒に配慮し、穴埋めや、本文の書き抜きに近い単純なものから、自分の言葉を補って書いたり、自分自身の体験と結び付けて書いたりするなど、段階的に難易度を上げていくように指導する。
- 語彙力を高めるために、積極的に辞書を活用し、短文づくりを行う。語句の意味を調べるだけでなく、文章の中で正しく使えるように指導する。
- 優れた叙述や、特徴的な表現について自分の考えをもち、発表する活動を行う。比喩的な表現や文脈の中での語句の使われ方に注意し、その効果について考えさせる。

(2) 読むこと【説明的文章】

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
2 読むこと 説明的文章	問 1	この文章で、筆者が問題にしていることを、本文中から五字で書き抜きなさい。	川の温暖化	下水処理場		58.3	6.0	70
	問 2	①「 <u>なぜ川霧が出るのか</u> といえば、 <u>川があたたまって</u> いるからです。」とありますが、多摩川の水があたたまっている原因について、いくつ述べられていますか。その数を書きなさい。	二つ	三つ 四つ 五つ		39.7	2.2	70
	問 3	にあてはまる言葉として適切なものを、次のア～エの中から1つ選び記号で書きなさい。 ア したがって イ しかし ウ つまり エ そして	ア	イ		33.7	0.8	70
	問 4	②「 <u>“避暑地”</u> 」とありますが、具体的にはどんな場所を指していますか。本文中より九字で書き抜きなさい。	下水処理場の放水口			87.4	3.9	70
	問 5	この文章は、内容から大きく二つに分けられます。その前半部分の終わりの五字を書き抜きなさい。	いるのです	えています		58.6	6.2	70

(単位：％)

読むこと【説明的文章】

問題

＜資料文について＞

山崎充哲『タマゾン川 多摩川でいのちを考える』からの抜粋である。

水温が上昇し、変化が表れてきた多摩川の生態系をテーマに、日本の環境を考え、いのちと向き合う筆者の思いが書かれている。

抜粋した文章は、多摩川の温暖化と下水処理場の関係という具体例を用いて、論理的に文章が書かれており、生徒が興味関心をもちやすい内容であるとともに、事実と筆者の考えが明確で、読み取りやすい文章である。一方、外来魚がくらしやすい環境になってしまっているという問題に対する具体的な意見が述べられておらず、筆者の思いを読み取ることは難しい内容となっている。

問1

この文章で、筆者が問題にしていることを、本文中から五字で書き抜きなさい。

分析

説明的文章における論の展開を正確に読み取ることができるかをみる問題である。正答率は58.3%であった。「筆者が問題にしていること」というのは、筆者自身の問題提起であり、文章全体で述べられているテーマである。多摩川に川霧が立つ理由、外来魚が生息できる理由を考えていけば、「川の温暖化」という言葉を見付けるのは容易である。しかし、「下水処理場」と解答する生徒が多くみられたのは、提起した問題の「原因」に注目した結果だと考えられる。

設問の意味を正確にとらえるとともに、キーワードに着目しながら、論の展開を正確に読み取る力を高めることが必要である。

問2

「なぜ川霧が出るのかといえば、川があたたまっているからです。」とありますが、多摩川の水があたたまっている原因について、いくつ述べられていますか。その数を書きなさい。

分析

文章中で説明されている内容を整理することができるかをみる問題である。設定通過率70%から、大幅に下回る39.7%の正答率であった。「川があたたまっている」理由は、川の水の温度が上昇する基となるものが流れ込んでいるからであることは、問題文を読んだ段階で予想できる。温度上昇に関わる原因となる記述は、下水処理場からの「熱」と、生活排水の「お湯」である。文章後半部では川の温度上昇がどんなことにつながっていくか、筆者の考えが述べられており、「熱」や「お湯」が様々な表現に言い換えられている。そのため生徒は混乱し、「3」「4」「5」といったような、誤答が出たと考えられる。また、「太陽で川の石が熱せられる」ことによる水温上昇は、冬の川霧とは直接結び付かないので、原因の数には入らない。

説明的文章は、重要語句やキーワードが別の言葉に言い換えられていることが多いので、注意しながら、読み進めていくことが大切である。

問 3

□にあてはまる言葉として、適切なものを、次のア～エの中から1つ選び記号で書きなさい。

ア したがって イ しかし ウ つまり エ そして

分析

論の展開に沿って、適切な接続詞を入れることができるかをみる問題である。正答率は33.7%であった。「しかし」を選択した生徒が多かったが、前の条件によって、順当にあとの事柄がおこるときは、「したがって」という接続詞がふさわしい。この文の一行後は「けれど」という言葉で始まっており、「しかし」という接続詞を用いてしまうと、逆接の意味をもつ言葉が重複することになる。このことから、文と文のつながりや、前後の関係を読む力が不足していることが分かる。

問 4

②「避暑地」とありますが、具体的にはどんな場所を指していますか。本文中より九字で書き抜きなさい。(句読点は除く)

分析

文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることができるかをみる問題である。設定通過率70%であったが、正答率は87.4%と、昨年同様に高かった。「避暑地」という言葉が、「暑さを避ける場所」という意味であることが理解できていれば、一行前の「多摩川の高い水温をさけるため」という表現から、その場所が「下水処理場の放水口」とであると読み取することは、比較的容易であったと考える。また「そこが三〇度以下のすずしい水が流れこむため」の「そこ」という指示語によって、「避暑地」という言葉と結び付けやすかったと考えられる。

文のつながりや、言葉の役割が意識できれば、正答を導き出せる設問である。

問 5

この文章は、内容から大きく二つに分けられます。その前半部分の終わりの五字を書き抜きなさい。

分析

文章の展開に沿って、正しく読み取り、内容のまとまりをとらえることができるかをみる問題である。正答率58.6%と、設定通過率を下回った。文章の前半部分は、川の水温が上がっている理由、後半部分は、水温上昇による生態系の変化について述べられている。正答の次の行「川の温暖化は生態系にさまざまな影響を与えています」の一文を後半部ととらえた誤答が多かったが、前半部分に、「川の生態系」に関する記述は書かれていない。「温暖化」「生態系」といったキーワードを押さえ、文章の展開に沿って内容のまとまりをとらえることが大切である。

指導のポイント

- 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要に応じて要約したりする活動を行う。キーワードに注意しながら読み取った内容をまとめることができるようにする。
- 文章の構成や展開について根拠を明確にして説明するなどの活動を行う。指示語や接続詞に注目させ、別の段落で言い換えられている表現を考える機会を設ける。
- 語彙力を高めるために、辞書を積極的に引く習慣を日々の授業の中で付けさせる。また、たくさんある意味の中で適切なものを選択したり、似たような言葉についても調べる活動を積極的に行ったりして、身に付けた語彙力を活用する機会を設ける。

「説明的な文章を読む」ことに関する参考資料

※平成26年度全国学力・学習状況調査 報告書【中学校】 国語B

<https://www.nier.go.jp/14chousakekkahoukoku/report/middle/lang/>

学習指導に当たって

目的に応じて文章の要旨を的確にとらえる

目的に応じて文章の要旨を的確にとらえるためには、文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解する必要がある。例えば、説明的な文章を読んで、更に調べたい内容を明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動が有効である。その際、読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るように指導することが大切である。

指導に当たっては、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B 1 三に係る授業アイデア例も参考になる。

(参照) 「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P.9～P.10

内容が正確に伝わるように説明する

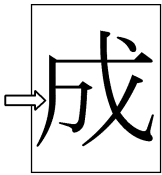
本や文章を読んで得られた知識は、他の人に向けて説明することで一層明確になるとともに定着が図られる。説明する際には、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取舍選択したり関係付けたりして、説明する内容を適切に表現することが求められる。その際、以下の二点を意識するように指導することが大切である。

- ・本や資料から得た情報を正確に理解して整理しているか
- ・伝えたい内容を正確かつ分かりやすく述べているか

生徒が書いたものを適切に評価する

言語活動に取り組ませる際には、評価規準を具体的に設定し、生徒が表現した内容が適切であるかどうかを判断し、必要に応じて指導を加えることが大切である。また、定期テスト等において、教科書で学習した文章とは違う文章で、身に付けた能力が定着しているかどうかを確認することも重要である。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
漢字の読み書き	1	税金を <u>オ</u> サめる。	納	収		54.2	12.8	70
	2	友人の <u>ソ</u> ンザイ。	存在	在存		74.4	11.4	70
	3	糸を <u>タ</u> らす。	垂	横線の過不足		53.2	26.2	70
	4	優勝を <u>キ</u> タイする。	期待	期体 期対		55.2	20.7	70
	5	子供を <u>養</u> う。	やしな	おぎな		79.3	6.4	80
	6	<u>安</u> 否を気づかう。	あんぴ	あんひ		83.2	3.9	80
	7	大軍を <u>率</u> いてやってきた。	ひき	もち		88.5	2.5	80
	8	<u>綿</u> 密な計画を立てる。	めんみつ	せんみつ		62.1	5.3	80
漢字の読み書き以外	問1	矢印で示した部分は何画目に書きますか、数字を答えなさい。 	1	2		43.5	0.6	70
	問2	物質が変化していく <u>カ</u> テ <u>イ</u> （ア 家庭 イ 仮定 ウ 過程 エ 課程）	ウ	エ		88.6	0.6	80
	問3	傍線部を現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。 <u>寝てゐても</u> 団扇のうごく親心	いても	みても		84.5	1.6	80
	問4	次の文の <u>遠</u> くにが修飾する文節を、傍線部ア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。遠くに <u>ア</u> 大きな <u>イ</u> 山が <u>ウ</u> 見える。	ウ	イ		53.6	1.4	60
	問5	次の二つの文の内容を、一文で表すとどうなりますか。 地図を頼りに山道を歩いた。すると、大きな池があった。	地図を頼りに山道を歩いて行くと、大きな池があった。	歩いていったら		54.9	2.8	60

(単位：%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

分析

漢字の読み書きについては、昨年よりやや低めの正答率であった。その他の語句に関する問題では、特に漢字の正しい書き順の理解に課題がみられた。

3 (漢字の読み書き)

漢字の書き取り問題については、1の「納」の正答率は54.2%であり、「収」という誤答が多くみられた。昨年、同漢字を「税金をア納 イ治 ウ収 める」という選択式の形で出題しており、正答率は82.1%であった。正しい漢字を選ぶ問題と書く問題では正答率に大きな差がみられた。2の「存在」の正答率は74.4%と設定通過率を上回った。3の「垂」は正答率53.2%、4の「期待」については正答率55.2%と設定通過率を下回った。

漢字の読み方5～7の問題の正答率は、設定通過率80%をほぼ上回った。昨年度に課題として挙げられた7の「漢字の訓読み」についても、88.5%と高い正答率となった。8の「めんみつ」は正答率62.1%と低く、日常生活での使用頻度の低い漢字の読み方に課題がみられる。

4 (漢字の読み書き以外)

【問1】 「成」の書き順の正答率は43.5%と設定通過率70%を大きく下回った。昨年、一昨年と比べると少しずつ上昇しているが、継続して見られる課題である。文字に対する意識の向上を図る指導が必要である。

【問2】 88.6%という高い正答率には、問題文中の「物質が変化」という理科の授業内での使用頻度の高さが関係していると考えられる。身に付けた知識をいかに日常生活の中で使っていくか、国語の授業以外の場面での指導が大切である。

【問3】 正答率84.5%と設定通過率を上回り、おおむね満足できる状況にある。「現代仮名づかい」を「現代語訳」と認識して答えてしまう誤答がみられた。

【問4】 正答率53.6%と、文の構造(成分)に対する理解の低さが目立った。誤答の中で多かったのは、「山が」という主語を修飾してしまう解答である。修飾・被修飾の関係を再確認する必要がある。

【問5】 適切な接続詞を使用し、文を書き換える問題の正答率は54.9%と低かった。昨年度に出題された同様の問題では、90.5%という高い正答率だったが、内容に合った適切な接続語を使って表すことに課題がみられた。

指導のポイント

○漢字の学習について

- (1) 国語辞典、漢和辞典を活用した授業、家庭学習を定着させる。漢字の成り立ちや意味を確認した上で、日常生活に即した用例を調べさせる。
- (2) 漢字の書き順については、書写授業における「文字指導」の一層の充実を図るとともに、「書くこと」の活動の中で、間違いやすい筆順の漢字については、日常的に取り上げて指導する。

○言葉のきまりについて

文法の学習が日常生活での表現力に大きく関わっていることを理解させるとともに、主語・述語の関係や、修飾・被修飾の关系到意させ、日常的に指導する。

(4) 書くこと

大問・領域	小問	問 題	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率																				
書くこと 条件作文	5	次のグラフは、文化庁の「平成二十三年度国語に関する世論調査」における「情報交換手段の多様化が、日常生活にどのような影響を与えているか」という質問に対して、「漢字を正確に書く力が衰えた」と回答している割合を平成十三年度の同じ調査の結果を比べて示したグラフです。このグラフからは、すべての年代で「漢字を正確に書く力が衰えた」と回答している人が増えていることが分かります。この原因と解決策について、あなたの考えを、【注意】にしたがって書きなさい。 グラフ 【質問】情報交換手段の多様化が、日常生活にどのような影響を与えているか 「漢字を正確に書く力が衰えた」 漢字を正確に書く力が衰えた <table><thead><tr><th>年代</th><th>平成13年度調査 (%)</th><th>平成23年度調査 (今回) (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>16～19歳</td><td>26.4</td><td>48.7</td></tr><tr><td>20代</td><td>44.1</td><td>74.9</td></tr><tr><td>30代</td><td>57.7</td><td>77.6</td></tr><tr><td>40代</td><td>51.8</td><td>79.5</td></tr><tr><td>50代</td><td>45.1</td><td>71.7</td></tr><tr><td>60歳以上</td><td>26.5</td><td>55.6</td></tr></tbody></table> (文化庁 平成 23 年度「国語に関する世論調査」より) 【注意】 ① 作文解答用紙に、題名、氏名を書かずに、本文から書き始めること。 ② 自分の考えは、経験したこと（見たり聞いたりしたことを含む）や身の回りの出来事と関連付けて述べること。 ③ 原稿用紙の正しい使い方にしたがって書くこと。 ④ 十行以上で書くこと。十五行を超えた場合は、欄外に書いてもよい。	年代	平成13年度調査 (%)	平成23年度調査 (今回) (%)	16～19歳	26.4	48.7	20代	44.1	74.9	30代	57.7	77.6	40代	51.8	79.5	50代	45.1	71.7	60歳以上	26.5	55.6	49.4	5.7	60
	年代	平成13年度調査 (%)	平成23年度調査 (今回) (%)																							
16～19歳	26.4	48.7																								
20代	44.1	74.9																								
30代	57.7	77.6																								
40代	51.8	79.5																								
50代	45.1	71.7																								
60歳以上	26.5	55.6																								

(単位：％)

書くこと【条件作文】

問題 前頁参照

分析 5 【条件作文】

1 資料について

「平成二十三年度国語に関する世論調査」における「情報交換手段の多様化が、日常生活にどのような影響を与えているか」という質問に対して、「漢字を正確に書く力が衰えた」と回答している割合を、平成十三年度の同じ調査の結果と比べて示したグラフである。

2 出題の意図

数字を読み取るだけでなく、平成十三年度の調査結果と比較して、経験を踏まえながら考えを書くという条件を指定した問題である。グラフの情報を正確に読み取り、自分の考えを明確にして、筋道を立てて文章を書くことができる力が求められる。

3 結果からみられる課題

正答率は49.4%で、昨年度の「今住んでいる地域の行事に参加している」という問題の正答率57.0%よりもやや低くなっている。無解答率は5.7%と昨年度とほぼ同じであり、正答率の低下は、解答の条件を満たしていない誤答が多かったためと考えられる。「原因と解決策についての自分の考えを述べる」「自分の考えを経験したことと関連付けて述べる」という、指定された条件を満たしていない解答が多くみられた。

また、誤字・脱字、言葉の使い方の誤り等も多く、書いた文章を読み返す習慣を付けさせる必要がある。

○主な誤答例について

①誤字・脱字

②係り受けの誤り

＜例＞ なぜなら、パソコンで文章を書くと簡単に漢字に変換され、辞書を引いたりする必要がなくなってしまう。

③文末の不統一

＜例＞ 漢字を正確に書く力が衰えた理由は、携帯電話の普及が原因だ。わたしも携帯電話を持っています。

④話し言葉の使用

＜例＞ なので、わたしはパソコンを使わずに文章を書くようにしたいと思います。

指導のポイント

○全ての領域において「書く活動」を積極的に取り入れる。

- ・図や表などを用いた説明や記録の文章を書く活動を行う。
- ・読み取った内容に対する自分の考えを書く活動を行う。
- ・伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く活動を行う。
- ・書いた文章を発表し、交流する機会を増やし、互いに批評したり、評価し合ったりする活動を行う。

○主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係の正しい文章を書かせるために、一文を短く書くよう指導する。

○書いた文章は必ず読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめる推敲を習慣化させる。

